ガスレビュー
GAS REVIEW
工業ガスを通じて世界を射る　http://www.gasreview.co.jp

カオス工業の経営と展望
No.911
2019年5月1日号
月2回／BIWEEKLY
1日・15日 発行
昭和57年4月16日
第三種郵便物認可

4/21	22	23	24	25	26	27 休
28 休	29 休	30 休	5/1 休	2 休	3 休	4 休
5 休	6 休	7	8	9	10	11

“To be or not to be”

地球の恵みを、社会の望みに。
エア・ウォーター
エア・ウォーター　検索

ヘリウム情勢 03 **リンデplc成立が引き起こす春の嵐**
USGSヘリウムレポート

国内市場 05 10連休が悩ましいガス・メンテナンスビジネス
休日手当負担増加、働き方改革の間に揺れる〝ハムレット〟

在宅医療 11 第59回日本呼吸器学会学術講演会開催
「前年度は売上高70億円を突破。3年後80億円、5年後100億円を目指す」
小池メディカル　小池和夫社長

焦点 09 「工業ガス事業の基盤強化と安定供給への役割強化を目指す」
東亜テクノガス　寺尾直光社長

企業研究 15 国産中心の半導体マーケットに海外製で基盤づくり
供給組み立てでさらに他分野にも斬り込む
バリューインパクト　榎本和則社長

地域市場再発見・新潟 17 回復基調の新潟ガス市場に訪れた値上げの春

5 国内市場　2018年工業ガス販売量｜日酸TANAKA、特約店会NT会を発展的に解消へ｜テクメイション、米モット社の国内総代理店に
7 時事コラム　エア・ウォーター、医療・農食分野の研究開発を担う新会社設立
8 海外市場　メルクがヴェルサムマテリアルズを買収｜プラックスエア、ミズーリ州のASU増産へ｜リンデ、米ルイジアナ州で大型ガス供給プロジェクト実施中
10 トピックス　島津製作所、高放熱合金の加工に適した青色半導体レーザで出力1kW達成
13 水素エネルギー　アルハイテック、廃棄アルミ由来の水素発生システム開発｜岩谷産業、伊丹空港水素ステーション開所｜独で世界初のFC電車運行中
16 HOT ASIA PRESS　中国・重慶のヘリウム・特殊材料ガスフォーラムで本誌が講演
23 流通回路　大陽日酸ガス＆ウェルディング、関西支社エネルギー事業部新設｜JIMGA、水素ガスハンドブックを10年振りに改訂｜エア・ウォーター、茨城に物流倉庫建設｜鈴木商館、京浜営業所を移転｜大陽日酸、岩手営業所を支店に昇格｜三菱化工機、人事異動
24 事故　高圧ガス事故件数、2008～18年累計9717件
25 DATA　世界半導体製造装置販売額
25 最新工業ガス関連株式市況
26 ガスレビュー指標　機器編
27 決算　昭和電工｜日本エア・リキード｜東亞合成｜堀場製作所
28 組織人事　東京ガスケミカル｜ガス保安検査、社長交代

変わらぬプロ魂で
世界を変えていく
大きな転換期を迎えている世界のガスマーケット。時代がどのように移り変わろうと、大陽日酸の「The Gas Professionals」としての揺るぎないプライドは、決して変わることはありません。
大陽日酸株式会社　東京都品川区小山1-3-26 東洋Bldg. www.tn-sanso.co.jp

国産中心の半導体マーケットに

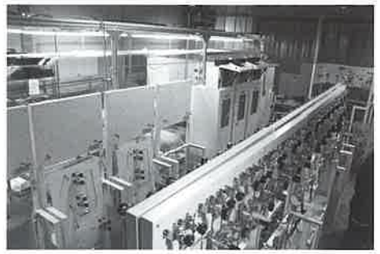
海外製で基盤づくり、供給系組み立てで さらに他分野にも斬り込む

バリューインパクト 榎本和則 社長

バリューインパクト（横浜市中区）は17年夏に開設した横浜技術センターが効果的に機能し、18年3月期の売上高は対前年140％の5億円超に急成長した。18年1月からはクリーンブースを導入し、社員も倍増させている。さらに仕事の幅が広がり、榎本和則社長は「工場も本社倉庫も在庫を増やしたことですでに手狭となり、工場と倉庫を統合、拡張移転先を探している」と構想を描いている。

ガス供給配管システムを次々仕上げる

クリーン配管の溶接等はクリーンブースでの作業となる



出荷待ちのユニット製品が並ぶ横浜技術センター

非国産ブランドを開拓

04年に創業したバリューインパクトは、05年に当時のTKSCTの販売を開始。TKSCTは韓国・釜山に工場を持ち、半導体等エレクトロニクス向けクリーンバルブ・継手、レギュレーター、フィルターを製造する。08年に工場投資し、効率化により抜群の供給力・コスト競争力を付け、09年には日本のフジキンが同社を買収、TKFとなった。その後もTKFブランドはバリューインパクトが日本での販売を継続しており、海外製品の発注、輸入、在庫管理業務等のノウハウに磨きをかけてきた。

ところで半導体関連マーケットにおいてガス供給関連機器は日本製品への信頼が厚く、シェアも高いことは周知の事実。しかし競争力が強化されたTKFを韓国の大手半導体メーカーが採用、一定評価を得てからはTKF製品の販売も成長を続けている。

その頃からバリューインパクトは一般産業用ガス向けにも販売を拡大、TKF以外にも石油化学や天然ガス等のプラントエンジニアリング、造船に強いバルブ・継手のDK-LOK（韓）、真空継手・バルブのエヴァーフィットテクノロジー（台、以下EFT）の国内販売を開始。現在はこの3ブランドが同社売上の基盤となる。

さらに17年～18年の半導体市況活況の時期、国産ステンレスチューブ類が慢性的に品薄となり、同社はオール韓国製のステンレスチューブMIPOTECHブランドの採用を決めた。同時に韓国釜山の溶接ベローズ製品のKOREA BELLOWS、圧力計のWISEの取り扱いも始め、これらと真空製品のEFTを合わせ、自社オリジナルの『PressVac』ブランドを立ち上げた。日本の部材メーカーが相次いで供給タイトに陥るなか、定着した輸入・在庫ノウハウで供給力の強みを発揮した。「もともと日本の企業は海外製品に対しアレルギー意識がある。しかし、韓国製・台湾製もレベルが上がっているし、じっくり調べて品質に問題がない部材を選んでいる。価格競争力が高いので、当社製品に切り替えればトータル価格を抑えられ、何よりも、日本のメーカーの製品が入荷できないときに代替えできたことで実績が付いた」と、榎本社長は販売ブランドが浸透してきた経緯を話す。

横浜技術センターフル稼働

「販売が増えるにつれ、メンテナンスや部材を組み立ててユニット化した商品の要望が増加。そのため思い切って17年の夏に横浜技術センターを設け、協力会社に託していた組み立て作業を自社で行えるようにした。単品売りよりも手間はかかるが、設計や施工の付加価値がつく。施工付きとなるとリークテストや耐圧検査など工場で出荷検査をしてからの納品となり、性能保証も自社で行える。部材メーカーによってはガス供給ユニットの部材を一社に統一するよう指定するところもあるが、性能が出せる適切な設計・溶接施工ができればいいので、コストや性能を最適化した部材を採用しやすい」。

技術センターの存在は想像以上のメリットを引き出す。製品トラブルがあった場合にも海外のメーカーに製品を送り返さず、自社工場で迅速に対応が可能。需要増のタイミングに人手不足等もあり協力工場を探していたガス事業者や装置メーカー等も多かった。一気に注目された感がある。

「クリーンブースも備え実際にお見せできる工場があると査察のために来てくださるお客様も多く非常に嬉しい。今後は取扱製品を展示しショールームのような機能も持たせたい」という。また、実際に工場でクリーン溶接したパイプサンプルを持って営業できるなど、「お客様に納得してもらえることで製品の信頼度も上がった」。実際に製薬・バイオや食品分野など半導体分野以外のガス供給設備の受注が増えている。

人材登用の吉

同社は韓国人や台湾人の社員も採用、メーカーとの交渉もスムーズに運べる。また、「営業部内に設けたカスタマーサポートチームが即応力をつけてきて、重要なバックアップを果たしている」といい、工場も含め、タイミングの合ったところで最適スタッフを育成、増強してきた。

コスト競争力のある商材を揃え、在庫ノウハウで需要に即応し、カスタマイズや設計・組み立てに対応できる体制を構築、さらに、これらの営業支援をしっかりと行える仕組みを作ったので、若い未経験の社員も迷うことなく自信を持って営業活動ができるようだ。「19年度上期は苦戦を予想」とするが、毎月コンスタントに80社ほどと取引するまでに成長した今、取引継続で売上の基盤が築けるはずだ。チャンスを掴み、速いテンポで次は何にチャレンジするか、注目される同社だ。

バリューインパクトは、創立15周年を迎え
新たに3つの製品を取扱いをはじめました。
是非お問合せください。

【主力製品群】ダイアフラムバルブ、自動溶接用継手、ダブルフェルール継手
ガスフィルター、圧力調整器、その他一般産業用バルブ類、真空部品（NW）

value impact TKF / DK-LOK / EFT輸入元
バリューインパクト有限会社

【本社】
神奈川県横浜市中区山下町24-8
TEL 045-212-2731 FAX 045-212-2736

【横浜技術センター】
神奈川県横浜市港北区新吉田東8-47-48
TEL 045-642-7121 FAX 045-642-7126

Hot Asia Press ホットアジアプレス

中国でのヘリウム・特殊材料ガスフォーラムで 本誌が講演 4月16日～17日、重慶市

中国で工業ガス業界に向けて媒体・情報発信、イベントなどを開催している気体圏子（Gas ecosphere、ブルース・レン社長）が主催する2019国際産業ガスデベロップメントフォーラムが、4月16日～17日の2日間、中国重慶市で開催された。第4回目となる今回のフォーラムでは、中国の工業ガス業界関連者を対象にヘリウム及び特殊材料ガスについての講演が催され、本誌も招待を受け、日本及び世界のヘリウム市場の動向及びエレクトロニクス向け特殊材料ガス市場について講演を行った。

フォーラムの舞台となった重慶市は上海から空路で3時間の内陸部の大都市。人口は3000万人を超え、山岳地域に高層ビルが立ち並ぶ大都市である。エレクトロニクス関連をはじめ進出企業も多い。

半導体、光ファイバー、MRIの3大需要の成長が著しいヘリウムの需給動向については、現地においても注目され、とりわけ最近の供給タイト化を背景にした供給価格の高騰、今後の需給動向に対する関心が高かった。

本誌では先進国型需要構造を持つヘリウムについて、これまでの日本市場の変遷と幾度かの供給タイト化の経験及び今後の供給課題について講演した。その他、ヘリウムについては新たなソースとして注目されるロシア、天然ガス由来ではない膨大な埋蔵量を誇るアフリカ、タンザニアの可能性、中国国内で水溶性のヘリウム資源など、世界最大の需要地である中国に向け次世代のヘリウムソースについての講演が行われた。豪州のノーブルヘリウムでタンザニアのヘリウムプロジェクトを担当しているアルベルト・ストロムクイスト氏は、「経済成長率を上回る規模で世界のヘリウム需要が成長した場合、既存の天然ガス由来のヘリウムソースだけでは供給力が覚束なくなる」とし、需要の主役となる中国に対してタンザニアのヘリウム資源の有効性をアピールしていた。

2日目のエレクトロニクス市場向けの講演セッションでは、本誌は日本の特殊材料ガス市場の現況を紹介した。国内生産の60％以上を輸出し、世界の特殊材料ガス市場において存在感を発揮し続ける日本メーカーの特長と強みについて説明した。

自動車の自動運転、人工知能、仮想現実、第5世代通信のカテゴリーにおいて、半導体需要が飛躍的に増加する背景の中で、現状需要の85％を輸入により賄っている中国において外資系ではなくローカル企業による半導体生産への要望は高く、他の講演者からもシラン系、フッ素系の材料ガスやケミカル材料などの紹介が行われた。

講演会の様子